

各地の取り組み－宮崎県における植物防疫業務－

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課 倉富 文代

■宮崎県農業の概要

宮崎県の農業は温暖多照な気候を活かし、畜産や施設園芸を中心とした収益性の高い農業を展開しており、品目別には、肉用牛、豚、ブロイラー、きゅうり、ピーマン、スイートピー、マンゴー等が全国トップクラスの生産量を誇っている。

2021 年（令和 3 年）の農業産出額は全国第 4 位の 3,478 億円で全国有数の農業県である。

■病虫害防除所の沿革

宮崎県の病虫害防除所は 1953 年（昭和 28 年）、宮崎、都城、延岡、日向、小林、東郷、高千穂の 7 ケ所で発足した。その後 1974 年（昭和 49 年）に宮崎、都城、延岡の 3 ケ所に統合された。

1987 年（昭和 62 年）に植物防疫事業の効率化を図るため、宮崎、都城、延岡の病虫害防除所を廃して宮崎県病虫害防除所を設置、1990 年（平成 2 年）に佐土原町に移転した。

2005 年（平成 17 年）に旧肥飼料検査所の肥料検査部門と統合して病虫害防除・肥料検査センターに改組・名称変更した。

2011 年（平成 23 年）には、病虫害防除・肥料検査センターが総合農業試験場に統合され、総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課兼病虫害防除・肥料検査センターに名称変更となり、現在職員 7 名で業務に当たっている。

■業務の内容

1 病虫害発生予察業務

当事業所では、水稻、野菜、果樹等の主要農作物 11 品目を対象に、169 種類の病虫害の発生状況を定期的に調査している。

その他、害虫 9 種を対象としたフェロモントラップ調査 23 地点、予察灯調査 4 地点を行い、毎月 1 回開催する病虫害発生予察会議において関係職員による検討を行い、適期・適正な防除

に必要な情報を農家や関係機関・団体に提供している。

このほか、病虫害防除員を 30 人委嘱し、調査結果を病虫害発生予察会議時に参考として共有している。

2 重要病虫害侵入警戒調査業務

県内では未発生の重要病虫害の侵入警戒調査を農林振興局等の協力を得ながら 4 種類（ミバエ類 39 地点、アリモドキゾウムシ 76 地点、イモゾウムシ 40 地点、カンキツグリーニング病 18 地点）の病虫害調査を計 173 地点で実施している。

また、2021 年（令和 3 年）に新たに発生を確認したトマトキバガのフェロモントラップ調査については県内農業改良普及センターの協力を得ながら継続している。

3 農薬登録拡大試験業務

地域特産物として栽培される作物のうち、生産量が 3 万トン以下のマイナー作物の農薬登録取得のための薬効・薬害試験と作物残留試験の試料調整を行っている。

近年はレイシ（ライチ）とにがうりでの試験を実施している。

4 肥料検査業務

肥料の安全性と品質確保を図るため、販売を目的とした堆肥の依頼分析および登録申請分析を受け付けている。

■課題

近年、気候変動に伴いツマジロクサヨトウやミカンコミバエ種群、トマトキバガ等新奇飛来性害虫が増加傾向にあり、緊急的な初動対応や調査業務が増加してきている。

限られた人員では対応が難しい場合もあるため関係機関と連携しながら重要病虫害の監視を継続していく。



図 1 植物防疫研修会の様子



図 2 水稻調査の様子